

体操検定の試験項目を実践する子どもら  
(田辺市中芳養の田辺体操教室で)

# 子どもの運動能力向上

体操を通じて地域の子どもの運動能力向上に取り組み田辺市内の指導者らが「体操検定」をつくった。20〜1級の試験項目を掲載した冊子を発行。子どもたちが上達していく目安になるだけでなく、指導者のためのマニュアルにもなる。多くの人に活用してほしいという。

# 「体操検定」活用して

## 田辺の指導者 上達目安の冊子発行

明洋中学校体操部、田辺工業高校体操部、田辺ジュニア体操クラブ、田辺体操教室の各指導者らが昨秋、体操検定作成委員会(委員長＝工藤英樹・明洋中体操部監督)を設け、内容を協議。このほど冊子を完成させた。

体操検定には各級に5〜10項目の試験がある。「ポーズを5秒間正しい姿勢で美しくできる」(20級)、「側転ができる」(15級)、「バク転ができる」(10級)、「前方宙返り2回ひねりができる」(1級)など。1級をクリアできれば国出場選手レベルという。作成委員会の各クラブや教

室では3月から体操検定の試験項目を練習に取り入れ、試験項目をクリアし進級した子どもには賞状を贈る。

検定は体操の上達だけが目的ではなく、試験項目をクリアしていくことで子どもの基礎体力や運動能力の向上を目指す。全国レベルの選手を育てている指導者らの知識や経験の集大成ともいえる内容で、「一般や他の指導者にも活用してもらい、地域にノウハウを普及させたいという。

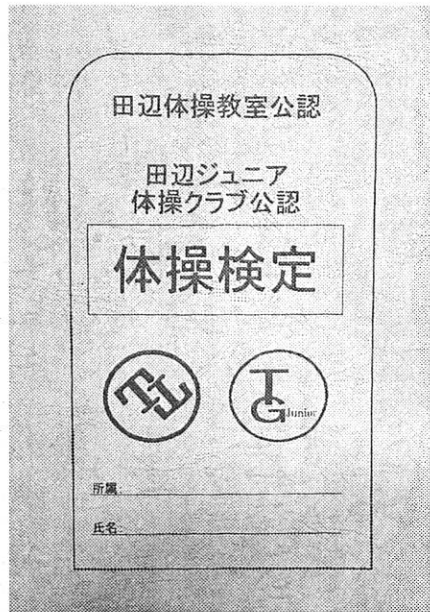
工藤委員長(47)は「体操だけでなくいろんなスポーツの基本になり、将来役に立つ

内容なので、気軽に実践してほしい」と話す。

田辺市は伝統的に体操が盛んな地域で、明洋中と田辺工業高校の体操部からは全国レベルの選手を数多く輩出。田辺ジュニア体操クラブや田辺体操教室が幼少期の育成を担っている。2015年紀の国わかやま国体の体操競技で団体優勝した成年男子のメンバーや、8位入賞した少年男子のメンバーも育てた。

策定委の副委員長で、田辺工業高校体操部監督の柴田達也教諭(50)は「わかやま国体の体操競技が良い結果に終わり、体操は地域に普及してきた。今度は地域への恩返しの意味も込めてノウハウを皆さんに還元し、子どもの体力づくりに力を入れていきたい」と話している。

問い合わせは、田辺体操教室(080・2543・9456)へ。



指導者らが作った体操検定の冊子